

2020年サントリー地域文化賞受賞
人形浄瑠璃 猿八座公演



越後國
柏崎
弘知
法印
御伝
言己

初段〜三段目

2023年

11月5日(日)

13:00 開場 13:30 開演 15:30 終演予定

会場 | 3階多目的ホール ドナルド・キーン・センター柏崎

定員 | 50名 要予約

鑑賞料 | 1,000円 当日会場にて猿八座応援金として募金し、
全額を猿八座へ寄付します。

※当館への入館料は別途必要です。

主催 | 公益財団法人ブルボン吉田記念財団

問合せ | 0257-28-5755 ドナルド・キーン・センター柏崎

センター上演記念

弘知法印御伝記紙ふうせんを
鑑賞者全員にプレゼント!



ドナルド・キーン・センター 柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

写真：島倉英嗣

越後國柏崎 弘知法印御伝記 初段～三段

◆初段

越後の国、弥彦山麓に裕福な長者が暮らしていた。妻には先立たれたが、息子夫婦には三歳の男子の孫がいて、嫁は二人目の子を身ごもっている。何不自由ない暮らしではあったが、息子の遊興好きが父、秋弘の悩みの種であった。今日も柏崎の遊郭に出かけた息子(弘友)を諫めるため、父も遊郭に向かう。

◆二段目

父が諫めに來ることを知った弘友は馬子と衣装を取替えるが、父に見破られて勘当される。成り行きを案じて表に出ていた嫁、柳の前は弘友の衣装を着た馬上の馬子を夫と見て、すがり寄る。驚いた馬子は柳の前を切り払って逃げ去り、柳の前は夫を恨みながら落命するが、身ごもっていた子は生まれ出る。その場に行き当たった弘友は己の愚行を悔やみ、妻を埋葬し長男の千代若を実家の門前に届けるが、置き去りにした嬰兒は狼が啜えて行く。

◆三段目

弘友は出家をしようと高野山を目指す。五智国分寺に籠った夜、幽霊となった柳の前に再会する。また、居合わせた弘法大師の弟子となり、弘知の名を授かる。高野山への道中、美しい娘に化けた魔王が修行の邪魔をしようとするが、振り切って高野山へ閉じこもる。

その後のおはなし…

◆四段目

家が傾き耕作をして千代若と暮らす秋弘は、孫を驚かせた蛇を殺そうとしたはずみで落命する。高野山での七年を経て、弘知法印は修行がてら故郷の越後を訪れるが、この場に行き会い、父子の名乗りはせぬまま、孤児となった千代若に弘嗣の名を授けて弟子にする。

◆五段目

弘知法印は高野山への道中で足を痛めた弘嗣を馬に乗せるが、仔馬に乳を飲ませるために休ませた馬の親子が、突然死ぬ。法印が経を唱えると馬の死骸が割れて、法印の両親が現れ、法印が観音大師の生まれ変わり、やがて即身仏となることを告げ、天に昇ってゆく。

◆六段目

生まれたばかりの次男を啜えて行った狼は弥彦権現の化身であった。今度は女性の姿となり、七歳になった次男を連れて現れる。柳の前の七年忌の命日に、法印と二人の息子は再会を果たし揃って墓参すると、二十五菩薩が来迎し、墓から現れた柳の前は紫雲に乗って成仏する。次男千代松は家督を継いで即身仏を安置する堂を建てること、長男弘嗣は堂の住持となるように言い残し、法印は即身仏となって往生する。都から勅使が来て、弘嗣を権大僧都に、千代松を越後国主にする宣旨が下され、遺言通りに即身仏を収める御堂が建つ。

今回はここまで!



浄瑠璃 (三味線弾語り) | 渡部 八太夫
舞 台 監 督 | 高橋 八重
人 形 | 西橋 八郎兵衛 堀 八島 逸見 八里 永野 八尋
長谷川 眞八 石井 紫猿 篠田 八助 和泉 猿丸
解 説 | 川村 知行(上越教育大学名誉教授)

来年もお楽しみに



座員募集中! 問合せ:080-2012-9115 西橋座長

ドナルド・キーン・センター 柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI